

21世紀源内ものづくり塾

実施機関：香川大学（総括責任者：長尾 省吾）

実施期間：平成20～24年度

プロジェクトの概要

香川には、光学検査装置、米ぬかエキス等独自技術によるオンリーワン企業が少なくない。しかし、グローバル競争の中で、製品開発における付加価値向上が急務であるが、先端分野のものづくり産業の集積が十分でなく、その担い手の育成と定着にも課題がある。

本プロジェクトでは、高付加価値の微細構造デバイスの企画立案、製作能力を修得させるとともに、マネジメントもできるものづくりの担い手を目標に、次のような人材を育成する。

- i) マイクロ・ナノ技術、微細構造デバイス技術などの先端技術を理解し、その実践力を身につけた高度技術者
 - ii) MOT（技術が持つ価値を最大限引き出すこと）的発想による製品コンセプトの企画、開発、検証サイクルが実践できるリーダー的人材
 - iii) 薬工、医工などの技術融合を通じて、学際領域での先端的なものづくりを担える人材
- このため、座学等を通じて問題解決能力を養う。さらに、MOT手法やマーケティングといった経営的視点からリーダーに必要な素養も植えつける。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性が見通し	中間評価の反映
A	a	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

高付加価値の微細構造デバイスを MOT 的発想による企画・立案できる技術開発リーダー人材の育成を目指した事業として、地域のニーズ、ポテンシャルを生かしたユニークな取組であり、産学官の壁を取り払って共同研究にまで結び付けたシステムは評価できる。修了後のフォローアップシステムを構築している点も評価できるが、今後は、大学としての総合的な取組により、講師陣のボランティア比率を下げるなどの施策を期待する。

- ・**目標達成度**：養成人材数は社会人、学生とも所期の目標数を超えて達成された。受講生の課題研究が大学と企業の共同研究にまで進展した件数が目標を大きく上回った点も評価できる。
- ・**人材養成手法の妥当性**：マイクロ・ナノ技術などの先端工学技術の実践力、MOT 技術、医薬・医工の技術融合などの習得、さらには個別の課題研究をマンツーマンで指導、育成する人材養成手法は評価できる。今後は、養成者の属人力に依存することなく組織としての課題設定力を担保できるようにすることを期待する。

・**実施体制・自治体等との連携**：知事によるものづくり人材育成の支援に関する宣言や、運営委員会副委員長に県の商工労働部長が就任するなど、本事業の運営には自治体、地元産業界が深く関与しており、よく連携していることは評価できる。

・**人材養成ユニットの有効性**：大学との共同研究を通じて新しいものづくりが始まっていることや、地域へ定着する学生が増加していることは評価できる。今後も、マイスターの称号に相応しい総合的な技術力を備えた修了者が輩出され、活躍することを期待する。

・**継続性・発展性の見通し**：香川県産業成長戦略における人材育成事業の一環として、地域の人材育成拠点としての活動が継続されることは評価できる。資金の裏付けは多様ではあるが、教員のボランティアに頼っているという懸念もあり、修了者への支援を継続的に実施するためにも運営体制の整備を期待する。

・**中間評価の反映**：中間評価での指摘「コミュニケーション能力の向上」や「中小企業からの養成人材受入れ増加」などに対しては、概ね反映されているものと評価できる。「医工、薬工の技術融合」に関しては、今後、スタッフの強化を含めたさらなる取組の強化を期待する。